NGOサポート募金
「東日本大震災　活動支援まとめて募金」
2012年3月分活動状況報告

2012年5月1日　(特活)国際協力NGOセンター

報告対象時期：2012年3月1日～31日　　活動団体：34団体

目次

（特活）ICA文化事業協会……2
(社)アジア協会アジア友の会……3
（特活）アジア日本相互交流センターICAN……5
（特活）ADRA Japan……6
（特活）ACE……7
公益財団法人オイスカ……8
（特活）幼い難民を考える会……9
（特活）オックスファム・ジャパン……10
（特活）グッドネーバーズ・ジャパン……11
公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン……12
公益財団法人国際開発救援財団……14
（特活）国際ボランティアセンター山形……15
（特活）国境なき子どもたち……17
（特活）シェア＝国際保健協力市民の会……18
（特活）ＪＨＰ・学校をつくる会……20
（特活）ジェン（JEN）……21
（特活）シャプラニール＝市民による海外協力の会……23
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会……24
（財）ジョイセフ（家族計画国際協力財団）……25
（特活）地球市民ACTかながわ……26
（特活）地球市民の会……28
（特活）チャイルド・ファンド・ジャパン……29
（特活）難民支援協会……30
（特活）難民を助ける会……31
（公社）日本キリスト教海外医療協力会　（JOCS）……32
（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）……33
（特活）日本リザルツ……34
（特活）ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン……35
（特活）パレスチナ子どものキャンペーン……36
（特活）ピースウィンズ・ジャパン……37
（特活）ブリッジ　エーシア　ジャパン……38
（特活）メドゥサン・デュ・モンド ジャポン（世界の医療団）……39
（特活）れんげ国際ボランティア会……40
（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン……41

団体名	特定非営利活動法人　ICA文化事業協会
活動地域	福島県相馬郡新地町
対象者	新地町全応急仮設住宅被災住民（全8か所）
実施した活動概要	ICA文化事業協会はジャパンプラットフォームの助成及び本NGOサポート基金の寄付等を活用し、福島県相馬郡新地町全8か所の応急仮設住宅にて、花植え活動を行った。花植え活動は新地町都市計画課・生涯学習課・各仮設自治会長と連携して日程を調整して実施した。天候に恵まれた開催日には、参加者が40人を超える活動を行うことができた。活動終了後には、ICAが用意した活動アンケートを配布し、事業の内容と今後希望をする活動について回答をいただいた。後日、各自治会長を通じて、仮設住宅が花によって大変明るくなった、という住民の喜びの声があった。また新年度に新地町行政が主体となっておこなうことが予定されている「新地町花いっぱい運動」の開催に住民の関心を促す、という自治体の活動をサポートする、NPOとして意義のある活動を行うことができた。

花植え活動の様子

がんご屋応急仮設住宅にて

団体名	公益社団法人 アジア協会アジア友の会
活動地域	宮城県本吉郡南三陸町歌津
対象者	歌津地区32ヶ所の集落・仮設住宅・避難所
実施した活動概要	● 情報発信　【桜通信の発行（隔週土曜　月2回発行）】 南三陸町の地域の生活情報、催し物、イベント、被災者に必要な情報などをまとめ、桜通信（地域瓦版情報紙）を700部（No.34のみ1400部）、隔週発行し、本会が活動している地域の人々への配布や回覧、仮設住宅の掲示板48ケ所での案内を行っています。 http://www.jafs.or.jp/news/touhoku-jishin-2011.html 3月は、南三陸町内の交番新規開設情報や防犯情報、新規開設店舗等の復興状況、1年の歩みなどに関する記事を掲載しました。 ● 生業支援　【地元食品加工場の設営支援】 今、地域に必要とされているのは、生活再建に向かうための経済活動、生産活動が実践できる場の支援。地域から強い希望のあった味噌や漬物の加工場の設営に向けて活動しています。 3 月 15 日には建て方が終了、3 月 20 日にはすべての設備機材搬入に併せて配管工事も完成し、保健所立ち入りの上、味噌製造・漬物製造の認可を受け、試運転できるようになりました。4 月 10 日に落成式を開催できるように準備を進めています。 南三陸町の方々が利用できるように広報と利用者受付、資材買い付け、搬入等を行いました。 ● 生業支援　【南三陸地場産品物産館「みなさん館」設営支援】 地元の農産物・海産物またそれらの加工品を販売できる地場産品物産館の設営に向けて、地域の方と話し合い、討議、調査、また、視察研修、ワークショップを重ねています。 直売所と加工場の運営母体となる地域住民を中心とした組織、夢未来南三陸協議会を重ね、出品者要項、パンフレット等の作成を行いました。

試運転の説明を受ける地元女性たち（石泉ふれあい味噌工房）

上質のわかめが収穫されはじめました（歌津　港地区）

団体名	特定非営利活動法人　アジア日本相互交流センター・ICAN
活動地域	宮城県及び愛知県
対象者	宮城県の被災児童、仮設住宅居住者、在宅被災者および愛知県のボランティア希望者
実施した活動概要	● 仮設住宅住居者間の交流促進のため、学校及び地区センターでピアノコンサートを実施し、その機材搬入や炊き出し200人分の準備等を行った。また、仮設住宅の集会所では、ビーズアクセサリー製作を約30名の住居者と共に行った。 ● 東松島市図書館と共に、子どもの読書推進活動で使用するポイントシールとごほうびの缶バッジを作成した。 ● 宮戸地区の地域活性を目的としたワカメ加工体験を、観光客約60名対象に実施した。

宮戸地区でのワカメ加工体験

ビーズアクセサリー製作

団体名	特定非営利活動法人　ADRA Japan
活動地域	宮城県亘理郡山元町、東松島市及び福島県
対象者	山元町、東松島市及び福島県の仮設住宅の住民
実施した活動概要	● 山元町の生活支援相談員向けに臨床心理士による「心の健康診断」を開始した。 ● また3月15日には、筑波大学・明海大学ヘルスカウンセリング学の講師より山元町の生活支援相談員向けに「コミュニケーション講座」を実施した。 ● 3月16日～18日、山元町の仮設住宅集会所にて足湯ボランティアの受け入れ及び派遣を行ない、3日間で43名が参加した。 ● 3月22日、東松島市の仮設住宅入居者に対して生活必需品を配付した。これをもって、同市における生活必需品（又は「スターターパック」）の配付が終了した。 ● 福島県では、引き続き生活必需品配付や制服支援を行なった。福島県における生活必需品の配付は3月末日をもって終了した。

足湯の様子

足湯後、参加者とボランティアがお裁縫をしながら団らんする様子

団体名	特定非営利活動法人　ACE
活動地域	宮城県亘理郡山元町
対象者	山元町に住む、子ども、大人や高齢者など住民、支援に関わる関係者
実施した活動概要	● ワークショップ実施後のフォローアップ ワークショップのまとめとして、実施したアンケートの回答や子どもたちの震災後の状況を冊子にまとめた。山元町の子どもたちの状況を改めて考え、今後の活動の方向性を見出すことができた。 ● ACEによる東日本大震災復興支援の活動報告 2011年度活動報告の一環として、ACEの支援者に対し、これまで行ってきた震災復興支援活動の報告を行った。

団体名	公益財団法人　オイスカ
活動地域	宮城県名取市、仙台市
対象者	被災地農業従事者（特に女性）
実施した活動概要	「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」 3月1日～　育苗圃場整備開始 3月3・4日　前田建設工業㈱従業員ボランティア30名による圃場防風ネット・単管パイプ・事務所等作設工事 3月9日　宮城県より払い下げのクロマツ種子16万粒を受け取り 3月11日　経済同友会長谷川代表幹事他幹部30名現場視察 3月12日　フォーリンプレスセンター主催アフリカ・中近東諸国主要プレス現場視察 3月22日　被災地農業従事者の播種技術講習会 3月29日　名取市・岩沼市農林課と飛砂飛塩調査に関する打ち合わせ 3月30日　宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ、普通クロマツ16万粒を播種（マスコミ6社取材）

前田建設工業㈱従業員ボランティア30名による圃場防風ネット等作設工事

宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ、普通クロマツ16万粒を播種

団体名	特定非営利活動法人　幼い難民を考える会
活動地域	宮城県（東松島市、石巻市、仙台市、気仙沼市、多賀城市、本吉郡南三陸町）、福島県（郡山市、田村郡、安達郡、福島市、会津若松市、伊達郡）、埼玉県（加須市）、岩手県（山田町、岩泉町、大槌町、釜石市）
対象者	避難生活を送る幼児期の子どもたちと保育関係者、母親など
実施した活動概要	● 保育セット寄贈（宮城県および福島県の10の保育施設） ● 被災によって経済状況が急変した家庭の子どもたちに対する、就学・進学支援金支給（13名） ● 被災地出張（14日： 福島県郡山市、伊達郡等の保育施設、27日・28日： 宮城県気仙沼市、多賀城市、仙台市の保育施設）。移転先での保育状況および、現行支援の適切性視察、ならびに追加支援の必要性・要望に関する聞き取り調査（ドナー同行）。 ● 被災した保育施設への人件費・家賃の一部を継続支援 ● 継続支援のための資金調達を目的としたドナー訪問

飲食店の倉庫を仮園舎として保育を行っている、緊急託児施設（写真奥の建物を園舎として使用）。保育環境を整備するべく奮闘中（宮城県気仙沼市「キッズＲＯＯＭおひさま」）。

トレーラーハウスで保育を行う保育園（写真右部分参照）。屋内の狭小感は否めないが、子どもたちは元気に過ごしている（宮城県多賀城市「おおぞら保育園」）。

団体名	特定非営利活動法人　オックスファム・ジャパン
活動地域	東京都（福島からの県外母子避難者支援） 被災地域各地（被災女性ホットライン） 被災地域各地（助産師による母乳保育相談） 宮城県（フィリピン女性をはじめとした外国籍の方のコミュニティ）
対象者	被災した女性 被災したシングルマザー 福島からの県外母子避難者（在東京） 被災した非日本語話者
実施した活動概要	● （特活）しんぐるまざあず・ふぉーらむを通して、週２日の無料ホットラインにおいて、被災したシングルマザーからの生活相談を受けました。また、東京在住の福島からの母子避難者に、グループカウンセリングや個別相談を行いました。 ● （特活）全国女性シェルターネットを通して、24時間の無料ホットラインにおいて、被災女性からの暴力や生活相談を相談員や弁護士が受けアドバイスをするほか、深刻なケースでは保護のための同行支援を行いました。 ● （公財）ジョイセフを通じて、独立開業助産師による母乳育児相談を実施しました。 ● （特活）多言語センターFACILを通して、気仙沼のフィリピン人被災者による、ラジオの番組制作グループ作りを支援しました。自助グループの形成を目指します。 ● 東日本女性支援ネットワークによるジェンダーと災害の政策支援活動を支援しました。

団体名	特定非営利活動法人　グッドネーバーズ・ジャパン
活動地域	岩手県釜石市、大槌町
対象者	一般、子ども
実施した活動概要	● 心のケアプロジェクト 以下の日程で子どものアセスメント、および教員向けカンファレンスの実施。 3月5日　　釜石保育園 3月15日　　上中島保育所 ● 大槌町社会福祉協議会支援 大槌町社会福祉協議会にてボランティア調整業務のサポートを実施 ● ガードレールプロジェクト グッドネーバーズ・ジャパンは大槌町仮設住宅近隣の主要道路にガードレールを設置するため、募金の呼びかけを実施。目標金額（50 万円）に達したことで 3 月 26 日にガードレール設置完了。 ガードレールプロジェクト第 2 弾として、引き続き募金の呼びかけを継続。 ● 漁業再開プロジェクト 漁業施設・機材の保管・管理を実施。本プロジェクト終了のため、現場スタッフへの引き継ぎ作業を実施。

ガードレール設置完了の様子

心理ケアプロジェクト教員向けカンファレンスの様子

団体名	公益財団法人 ケア・インターナショナル　ジャパン
活動地域	岩手県宮古市山田町・大槌町などの沿岸部、釜石市
対象者	上記地域で被災した方々
実施した活動概要	● 物品提供（わかき保育園への物資提供） 職員用ロッカー、職員用ユニフォーム、子供の簡易砂場、砂の提供、子供用タンスなどを提供。 ● 地域の絆／心のケア関連 ① コミュニティ・カフェ運営サポート 仮設住宅に付随する談話室にて、仮設住宅にお住いの方を対象とした心のケアプロジェクトの一環、特に住民の孤立の防止を目的としとして、毎週水曜日に開催されるコミニティ・カフェ運営（山田町社会協議福祉会の主催）のサポートを引き続き実施。下記が各仮設住宅地でのコミニティ・カフェ実施状況です。 3月7日：＜午前＞ 町民グランド　26名参加 ＜午後＞ 席や果樹園　25名参加 3月9日：＜午前＞　浜川目　26名参加 ＜午後＞　山谷コミニティセンター　15名参加 3月12日：＜午前＞　なし ＜午後＞　織笠小学校校庭　8名 3月14日：＜午前＞ 間木戸　27名参加 ＜午後＞　平安荘付近・関口児童館　8名参加 3月21日：＜午前＞　不動生コンⅠ　21名 ＜午後＞　不動生コンⅡ　16名 ※ 3月は、累計172名の方の参加がありました。 ② リクリエーション活動支援 地域で開催されるリクリエーション活動を、資金・物資・人材提供など側面的に支援。下記が2月に行ったリクリエーション活動支援の詳細です。 ● 3月11日【宮古市田老地区慰霊祭での支援】 NPO田老が主催する、宮古市田老地区慰霊祭にて、仮設住宅団地2カ所から開催地の常運寺までのシャトルバス2台で4往復の支援。（約40名の方が利用。）お寺の前に飾る手作り灯篭（亡くなった方、行方不明の方の家紋付）を約170個提供。 ● 3月19日～20日【盛岡市 盛岡大学付属高校の柔道部支援】 日本武道館で開催される全国高等学校選手権大会参加のため、盛岡市・盛岡大学付属高校柔道部の交通費(夜行バス) 9名分を支援。交通費支援の9名全員が沿岸部出身。

	● 3月24・25日【山田町 少年ミニバスケットボール少年団チーム大会参加支援】 4チーム約60名の大会への移動・宿泊経費支援。（※マイクロバス3台分の経費、宿泊費を含む） ● 3月30日～4月1日 【大槌町 大槌中学校サッカー部支援】 静岡で行われるジュニアサッカーユースフェスティバルへの参加支援。参加者18名の約交通費を支援。 ③ コミュニティ新聞発行の支援 情報提供や印刷に関わる資機材（または料金）の提供、離れた地域への新聞配達など側面的な支援を実施。 ● 山田町：第 7 号「希望新聞」（※震災直後、山田町避難所内で配布されていた新聞『くじら山ろく』の復興版）が 3 月 12 日に発行。通常通り、約 2000 部配布。 ● 田老地区：第4号「明日に向かって」が3月1日に発行。主に田老地区で再開された店舗の紹介など、地域の情報を発信。

震災から1年目の2012年3月11日、岩手県宮古市では雪が降りました。翌日12日に発行された「希望新聞」を、仮設住宅一軒ずつに配達するCAREスタッフ。©CARE

山田町の社会福祉協議会が主催しているコミニティ・カフェにて、CAREはお茶やお菓子、テーブルなど物資提供といった側面的な支援を行っています。コミニティ・カフェでは、座ったままで体操をしたり、唄を歌ったり、皆さんで冗談をいったり。大きな笑い声が絶えません。仮設住宅は壁がとても薄いので、あまり大きな声を出せないことから、1か月に1度のカフェ開催をとても楽しみにしている、と教えてくれました。©CARE

団体名	公益財団法人　国際開発救援財団（FIDR「ファイダー」）
活動地域	岩手県沿岸部中心
対象者	東日本大震災の被災者の方々
実施した活動概要	● 岩手県沿岸部の中学校・高校を対象に、部活用具の購入や遠征費等の活動費用を支援。 ● 岩手県の中高生が実施するボランティア活動費用を支援。 ● 山田町及び大槌町において、仮設住宅団地内の自治会形成等を支援。 ● 買い物等の交通手段が困難な方を対象に、無料巡回バスを山田町へ提供。（運行は、山田町社会福祉協議会）。レンタル車両から新車への切り替えにあたり、3月5日新車贈呈式を実施。 ● 平成23年度分の大槌町が実施する子どもに関わる諸事業（※）に対して、総額2,800万円を支援。 ※以下の事業の国からの財政補助がない部分について支援 ● 平成23年度保育所負担金 ● 平成23年度幼稚園保育料及び入園料 ● 平成23年度大槌町学校給食調理業務委託に要する費用 ● 平成23年度保育料町単独減免措置分に要する費用

無料巡回バス「まぢづけぇ号」

贈呈式にて、山田町社会福祉協議会 佐藤実会長（左）に鍵を贈呈するFIDR角事務局長（右）

団体名	特定非営利活動法人　国際ボランティアセンター山形 （東北広域震災NGOセンター）
活動地域	宮城県（気仙沼市・石巻市を中心に）
対象者	キャッシュ・フォー・ワーク／震災によって職を失った（あるいはそれに準ずる）石巻市・気仙沼市内の方 泥上げ・清掃・解体／被災した家屋や店舗の方 朝市・お茶会・買い物代行／仮設住宅の移動不便者や高齢者の方 見守り支援・配食サービス／仮設住宅や在宅の高齢者のうち、必要とされる方 物資支援／遠隔地・小規模な避難所の方、自宅避難されている方 仮設住宅支援／仮設住宅の棚付けなどを必要とする高齢者
実施した活動概要	● 失業保険も切れ始め、失業問題の深刻化する石巻市と気仙沼市において、「キャッシュ・フォー・ワーク」を実施し、石巻と気仙沼周辺で合計約65名の被災者を雇用してきました。4月12日の開始から数えると、112名になります。 ● 雇用者の仕事は、①被災した家屋や店舗において、ガレキ撤去・ヘドロ除去に加え、草刈り、リフォーム前の解体や消毒、②高齢者見守り、③お茶会や高齢者向けのレクリエーション、③引越し手伝い、④イベントの開催、⑤その他被災者である雇用者自身が「地域に必要だと思うこと」が対象です。 ● また、両事務所の事務も地元被災者を雇用して行なっています。 ● 雇用者の再就職支援の一環として、運転免許やヘルパー等の資格取得などもサポートしています。 おかげさまで、4月12日からの活動で通算、458件の家屋や工場、事務所などの清掃、316回以上の物資配達、仮設住宅88戸での収納改善（棚の取り付けなど）、633回の朝市（累計3040人参加）、累計1923人の高齢者の見守り、342回のお弁当配達、97回のお茶会の開催を行うことができました。 IVYは今後も、東北のがんばって働く人々の応援をしていきます。

気仙沼事務所最後の現場となった、鹿折の清掃現場。建物は焼け焦げていましたが、柱が生きているらしく、今後修復されるようです。

総勢114名にもなったキャッシュ・フォー・ワークの雇用者を集い、プロジェクトの「完了式」を行いました。危険を伴う作業でしたが無事に終えたことと、プロジェクトを通して出会った仲間たちとの絆を再度確認し合うことができました。

団体名	特定非営利活動法人　国境なき子どもたち（KnK）
活動地域	岩手県沿岸部その他
対象者	子ども
実施した活動概要	岩手県、陸前高田市で運行している移動型子どもセンター「走る！KnK子どもセンター」は、述べ313人の小中学生に活用された。14日（水）午後18時9分ころ、震度4の地震が発生。津波注意報が出たため、運行を中止した。その際の非常時の避難行動、対応などに一部混乱が生じたため、岩手事務所スタッフで緊急時の対応、防災グッズなど再確認を行うなどした。 中学3年生たちは受験勉強に取り組んでいたが、全員が無事志望校に合格することができた。 後方支援としては、引き続き支援の必要性を訴える啓もう活動として、3月3日（土）に福岡でcross fm主催のチャリティイベントに参加し、ラジオの公開生放送で活動紹介し、同時に繁華街でパネル展示を行った。また、3月10日（土）より23日（金）まで、新宿御苑で開催された東北復興支援および日仏文化交流推進を目的としたイベントにNPO代表として参加し、10日のオープニングで東北での活動報告や提言を行う他、会場内のブースで東北での活動写真を展示した。

集中して勉強する受験生たち

東北復興支援イベントで未来への提言を行う KnK 事務局長

団体名	特定非営利活動法人　シェア＝国際保健協力市民の会
活動地域	宮城県気仙沼市
対象者	仮設住宅および在宅の住民全般。保健ニーズがあれば誰でも。
実施した活動概要	シェアは、気仙沼市の保健福祉関係者が立ち上げたNPO「生活支援プロジェクトK」を支援し、共同で事業を行っています。階上地区に設置したトレーラーハウス「はしかみ交流広場」を拠点に、以下の活動を共にしています。 ● 健康・生活相談、個別支援 はしかみ交流広場は毎日オープンしており、介護や保健の専門性を持つスタッフが日々の相談を受けています。また、仮設住宅でのお茶会などで健康相談コーナーを設けて血圧測定・体重測定を行い、病気の予防や早期発見を促しています。 ● コミュニティ支援 住民の状況とニーズを把握し、コミュニティの形成を支えるため、仮設自治会の支援を行っています。3月11日には、これまで慰霊碑の建立をお手伝いしてきたある仮設住宅の遺族会の一周忌法要が行われ、開催までのお手伝いと当日の参加をしました。そのほかの自治会でも、文書作成などのサポートを行いました。 ● フリースペース 毎週水曜日、地元の団体と共催で編み物講座を開いています。講座のないときも編み物をしに来られる方もあり、編み物を通じて輪が広がっています。 住民の方がいつでも立ち寄りお茶を飲んでいただくスペースを設けています。わかめ漁が再開され、震災で家族を亡くした方が、毎日仕事のあとにお茶を飲みに来られます。 3月17日には、東京にて活動報告会を開催しました。 シェアは、プロジェクト K と協働する活動を通じ、地域のつながりを支え、被災地の人々の健康を見守る活動を継続していきます。

多くの方が亡くなった杉ノ下地区避難場所近くに、遺族会により慰霊碑が建立された。除幕式と一周忌法要が行われた。（2012年3月11日）

震災で家と家族を亡くし仮設住宅で独り暮らしの方が毎日のようにお茶を飲みに来られる。3月11日も、お茶を飲みながらおしゃべりした。（2012年3月11日）

団体名	特定非営利活動法人　JHP・学校をつくる会
活動地域	宮城県南三陸町
対象者	南三陸町民
実施した活動概要	● 災害ボランティアセンター運営 当会スタッフの長期派遣は12月20日をもって終了しているが、電話やメール等を利用してセンター運営に関して当会スタッフが側面的にアドバイス等を継続している。 ● ボランティア活動隊派遣 ① 3月9～14日まで第40次隊を10名派遣し、災害ボランティアセンターが進める活動（ワカメや芽カブ収穫・選別・袋詰め作業） ② 3月11～13日まで、当会支援の静岡県の三島グループ7名を派遣し、南三陸町の仮設住宅に住む高齢者を対象に「つるし雛講習会」を実施した。3月12日には26名、13日は30名が参加し、会場に入るのがやっとの盛況ぶりだった。 ● 派遣者数（2011年3月～2012年3月末） 現在まで延べ201名（運営要員:延べ51名、活動要員（視察含む）：延べ150名） ● 主な寄贈品（3月） 漁協の作業小屋として要望を受けたプレハブ支援について、購入準備を進めた。購入は4月以降を予定している。

つるし雛講習会の様子

曾孫の誕生日のためにつるし雛をつくる御婆ちゃん

完成したつるし雛に喜びひとしお

団体名	特定非営利活動法人　ジェン（JEN）
活動地域	宮城県石巻市とその周辺
対象者	東日本大震災で被災し、 自宅で避難生活を続けている住民の方々 仮設住宅に入居された住民の方々 生業復帰を目指している個人事業主の方々
実施した 活動概要	● 瓦礫撤去事業 震災による被害を受け、資機材や資本をなくした瓦礫撤去事業者に対し、これまでに資機材を貸与、彼らの生業復帰へのサポートを行いました。地域の力を活かし、急務とされている瓦礫撤去を促進したこの事業は、2月29日をもって終了しました。 ● 物資配布事業 仮設住宅へ、生活物資の調達および配布を実施しました。現在は、131か所の仮設住宅へ、自治会の形成にむけたサポートを行っています。 ● コミュニティ・スペース 被災された方々が将来に渡ってともに支え合える環境を再生するために、コミュニティ・スペースの再建築や運営をサポートしています。顔合わせの『お茶（ぢゃ）っこのみ』や弁護士による法律相談など、2月末現在、市内3か所で運営中です。 ● 中小企業・個人事業主の生業復帰支援 牡鹿半島にて、震災による被害を受けた個人事業主に対し、営業再開(再建)または新規事業のサポートを行っています。鮎川浜に仮設商店街『おしかのれん街』を支援。１６店舗が入居し、むこう２年間の間に、将来の道筋を作れるよう、ハード面のみならず、ソフト面でも支援しています。 ● ボランティア事業 復興支援ボランティア 緊急期の泥出しから、公共の場所での作業、生業復興のサポートなど、活動内容が変化している。2月末現在、参加したボランティアの数は述べ4,735名となりました。 ● その他の短期プログラム 子どものための心のケアワークショップ（お絵かき教室、補修サポートなど）や、手芸教室など。

【石巻消防音楽隊楽器贈呈式】

一般財団mudefとJENで、石巻地区広域行政事務組合消防音楽隊へ楽器贈呈式を行いました。音楽活動の再開を待たれていながらこれまで楽器支援がなかったことから、この度、震災楽器10点の贈呈を行いました。JENによる楽器支援は、昨年末の石巻市内小中高校への楽器贈呈に続く第2弾となります。新しい楽器を手に、隊員の皆さんはとても表情が晴れやかでした。

【パノス・カランコンサート】

ギリシャ人ピアニスト、パノス・カランさんがJENの活動地である仮設住宅や集会所などで無料コンサートを行いました。昨年避難所を巡ってコンサートを行った同氏が、今回再度石巻を訪問しました。「さくらさくら」「荒城の月」などの日本曲も披露してくださり、各地の方たちの心を癒してくださいました。

団体名	特定非営利活動法人　シャプラニール=市民による海外協力の会
活動地域	福島県いわき市
対象者	いわき市在住の被災者（いわき市民および相双地区等からの避難者）
実施した活動概要	● 交流スペースの運営 いわき駅前にある商業施設「ラトブ」内で被災者のための交流スペース「ぶらっと」の運営を継続した。馴染みのない土地で避難生活を強いられている被災者が、自由に利用できる交流スペースとして、一日平均30人程度が来所している。被災者にとって有益と考えられる支援情報やイベント情報を収集、掲示しているほか、手芸教室や健康運動教室など、毎週イベントを企画している。被災者自身が講師となることで自信を取り戻したり、参加者同士の交流が生まれるなどといった効果も確認できている。 4月からは、近くにあるイトーヨーカドー平店へ移転して運営を継続する。 ● 情報紙の発行 交流スペース「ぶらっと」の活動報告、利用者の声、支援関連情報、いわきの生活情報などを掲載した情報紙を毎月発行している。約1,100軒の被災者世帯へ直接送付しているほか、行政窓口、他団体運営施設およびぶらっとでの配布を行い、合計で3,000部を発行。 イトーヨーカドーへ移転後は来場者数が増える見込みのため、発行部数を増やすことを検討する。

アクリルたわし教室の様子

情報紙「ぶらっと通信」

団体名	公益社団法人　シャンティ国際ボランティア会
活動地域	宮城県気仙沼市、岩手県沿岸（山田町、大槌町、大船渡市、陸前高田市）
対象者	一般
実施した活動概要	● 気仙沼市での活動 ① 3/11 に、今朝磯仮設、天ヵ沢仮設、蔵内仮設、津谷小学校、大谷公民館にて事前に作成したキャンドルを使用して、市内１３ヵ所の仮設住宅や公共施設で 3.11 ともしみプロジェクト（追悼式）を実施した。 ② 大谷小学校にて、鶴見大学の学生ボランティア協力のもと、春の学習支援（冬休みの学習支援で子どもたちが描いた絵をまとめた画集の表紙づくり）を開催した。 ③ 今朝磯仮設、福祉の里仮設、津谷小学校にてお茶会を行った。 ● 岩手県での活動 岩手県沿岸部の山田町、大槌町、大船渡市、陸前高田市、4地域の19の仮設住宅に対し、移動図書館車で約2,000冊の本の貸し出しや集いの空間づくり（3月の利用者数614人、貸し出し冊数1,591冊）、及びかねざわ図書室を毎週月・木曜日および第一・三日曜日に開館。大槌町25か所での文庫活動をしている。

子どもたちが描いた絵をまとめた画集の表紙づくり

雨の日に、来てくれた小さなお客さま

団体名	公益財団法人 ジョイセフ
活動地域	岩手県、宮城県、福島県
対象者	妊産婦と女性及び新生児
実施した活動概要	昨年義援金（ケショ）を支給した産婦のお子さんへの 1 歳のお誕生日ギフトとして、支援企業の協力も得て、3 月生まれのお子さんをお持ちの産婦約 210 人に以下のギフトを贈りました。2012 年 12 月まで、毎誕生月に 1 歳のお誕生日ギフトを贈ります。 ● メッセージカード ● 絵本「ママ」 ● CD「Lumiere」（大島花子さん CD） ● はちみつクレヨンお絵かきセット

1歳のお誕生日キット

団体名	特定非営利活動法人　地球市民ACTかながわ/TPAK
活動地域	岩手県釜石市
対象者	岩手県釜石市の2つの保育園の園児、保育士、約200名とその家族
実施した活動概要	岩手県釜石市の保育園への支援活動：（2011年5月より「心と体のケア」を継続） 「子ども達が安心できる場を」 2つの保育園の再建計画が順調に進んでいます。KHWドイツ子ども財団様、クレディスイス証券株式会社様からのご支援をいただき、釜石市の2つの保育園の新しい園舎建設のお手伝いをしています。 ● 震災を乗り越え、保育園から羽ばたく子ども達 東日本大震災から1年…。仮園舎で園を巣立つ子ども達を見送る初めての釜石保育園卒園式が行われました。今年卒園するのはぞう組のみんな11人。いつもわんぱくな子ども達もこの日はブレザーやドレスを着て、緊張気味でしたが、立派な姿に先生や保護者の皆さんは感動していました。保育園で育っていく子ども達は釜石の未来を担う大きな原動力！TPAKでは少しでも子ども達の力になれるようこれからも活動を続けていきます！ ● 内閣府「新しい公共事業」助成決定 本事業は、NPO等、企業、行政などの多様な担い手が協働・連携して、自らの地域課題解決に当たる仕組みの下での先進的な取組が他の地域のモデルになるような事業として、TPAKの震災復興支援活動が採択されました。具体的には、釜石市と「釜石横浜子ども協議会」を設立し、2つの保育園への支援と共に、釜石市、地元NPOなどと協働して地域コミュニティの再構築のお手伝いもしていきます。 ● 2012年度TPAK釜石支援活動本格始動！参加者募集中！ 東北の長い冬もようやく終わり、TPAKの釜石での活動が本格始動します！去年参加された方も、まだ参加したことがない方も子ども達のためにご協力よろしくお願い致します。※詳細は事務局までお問い合わせください。 ● 2012年度　上半期　TPAK釜石支援活動 5月プレイセラピー、タッチケア、6月プレイセラピー、タッチケア、7月夕涼み会、8月プレイセラピー、タッチケア、9月運動会

卒園式の様子。保育園で育っていく子ども達は釜石の未来を担う大きな原動力！

伝統芸能の太鼓を披露。元気いっぱい叩いていました。

団体名	特定非営利活動法人　地球市民の会
活動地域	仙台～東松島～気仙沼
対象者	子ども、高齢者、仮設の方々
実施した活動概要	●　ハッピーストック　プロジェクト 風評被害米で作成した寄付つき純米吟醸酒「福興支援の酒　絆伝心」が完成し、3 月 11 日に予約分のお渡しと販売をし完売しました。益金の 30 万円を酒税法の関係で有限会社ひのでや酒店からの寄付とし、支援金として、4 月に被災地に持って行きます。 ●　いのちのまつりプロジェクト 3月10日に夢ハンカチと人とキャンドルでつなごうというイベント「走れ仙石線」を実施し、ボランティア200人、参加者500人の700人が集まりました。 ※　３・１１東日本大震災復興支援 SAGA コンサート～天までとどけ！こころの絆～を開催いたしました。5000 人参加、80 万円の寄付、募金をいただきました http://www.genkiokurou.jp/_1020/_1008/_1620.html

福興支援の酒　絆伝心

走れ仙石線！

団体名	特定非営利活動法人　チャイルド・ファンド・ジャパン
活動地域	岩手県大船渡市
対象者	大船渡市及びその周辺の子ども、住民
実施した活動概要	● 卒業アルバム制作支援 卒業を控えた大船渡市内の中学3年生と小学6年生を対象に、卒業アルバム制作費用の一部を支援しました。学校生活での思い出を胸に刻み、新たな生活にのぞむための活力を得てもらうことを目的とし、22の小中学校、800人余りに、一人5,000円の支援を行いました。 ● 越喜来保育所仮設保育室の建設支援 越喜来保育所は、子どもたちは全員無事だったものの、津波により建物が流失してしまいました。チャイルド・ファンド・ジャパンは大船渡市教育委員会の要請を受け、仮設保育室の整備に協力しました。3月30日には完成を祝う式典が行われ、チャイルド・ファンド・アライアンス事務局長ジム・エマソンから今野教育長に記念の額が贈られました。 ● コミュニティ形成を目的とした菜園「友結ファーム」の支援 大船渡市猪川町にある長洞仮設住宅団地の隣に、住民の方が共同で運営する菜園「友結ファーム」を設置し、活動を支援しています。野原を目の前に「本当に畑できるのかな」、「どんな苗を植えようか」など不安と興奮の声ではじまった活動が、季節の変化とともに軌道に乗り、コミュニティの輪が広がってきています。

卒業アルバムを手にする大船渡市猪川小学校のみなさん

越喜来保育所仮設保育室の完成式典での集合写真

団体名	特定非営利活動法人　難民支援協会
活動地域	岩手県、宮城県
対象者	既存の支援体制から取り残されやすい方（女性、子ども、外国人など）
実施した活動概要	引き続き①弁護士による法律相談、②助産師など専門家による女性相談、③外国籍被災者就労支援を実施した。 ① 仮設住宅で 9 回、のべ 69 名の法律相談に対応した。 ② 仮設住宅で相談会を 6 回開催、のべ 75 名が集まった。 ③ 第 3 グループに向け、講習会を 8 回開催した。また、今までの受講生やその家族、勤務先の施設の方を集めた修了式を実施した。 また、地元発の「桜ライン 311」プロジェクトの後方支援を継続して行っており、3 月には植樹のセレモニーを実施した。

外国籍被災者就労支援の修了式の様子
©難民支援協会

桜ライン 311 のセレモニーの様子
©難民支援協会

団体名	特定非営利活動法人　難民を助ける会
活動地域	岩手県釜石市、陸前高田市、山田町、宮古市、大槌町、大船渡市、田野畑村 宮城県東松島市、仙台市、名取市、 福島県南相馬市、相馬市、福島市、伊達市、郡山市、二本松市
対象者	被災した障害者、高齢者など
実施した活動概要	● 福島県では、震災と原発事故の影響で、子どもたちが思い切り体を動かす機会がほとんどなくなってしまいました。そこで、放射線量が比較的低い地域では、仮設住宅の敷地にブランコなどの遊具を設置、屋外遊びの難しい地域では、屋内用の遊具やおもちゃなどを提供しました。 ● 宮城県と岩手県沿岸部の被災地域で、生活不活発病の予防と地域交流を目的に、「地域みんなで元気になろう」と題し、作業療法士・理学療法士によるマッサージと健康体操、傾聴活動、交流イベントなどを実施しています。3月には岩手県大船渡市や釜石市、宮城県東松島市などで実施しました。東松島市の響仮設住宅の集会場では、住民の方を講師に古布を使った人形作りを支援しています。講師の方の作品を見た石巻市の仮設住宅の方々から、「作りたいけれど先生がいない」という声があがったことから、3月8日は合同で人形作りの教室を開催。人形作りを楽しむとともに、お互いの被災状況や仮設住宅での活動など、情報交換や交流が弾みました。 ● この他、福祉施設への機材提供や修繕（約50ヵ所）、福島県相馬市の子どもたちの精神的ケアや市内の仮設住宅（1,361世帯）への全戸訪問、授産施設の販路拡大支援などを行っています。

東松島市と石巻市の仮設住宅の方々が、合同で古布を使った人形作りを実施（2012年3月8日、宮城県東松島市

久しぶりに思い切り遊んで、おおはしゃぎの子どもたち（2012年3月14日、福島県相馬市）

団体名	公益社団法人　日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)
活動地域	岩手県　釜石など 宮城県　仙台・石巻
対象者	仮設住宅及び孤立集落の在宅被災者の方々（主に高齢者）
実施した 活動概要	●　釜石地区 ①　カリタス釜石ベース（カトリック釜石教会）の「心のケア」チームへ、毎月（月命日を挟んで4日間）カウンセラーを派遣し、教会内の「ベースふぃりあ」（心のケアのためのサロンスペース）と、2か所の仮設住宅へ出向く「移動ふぃりあ」への協力を行っている。また派遣カウンセラーは、地元の生活支援指導員・福祉関係者やボランティアなどを対象とした被災者のケアや支援者のケアに関する研修の講師（地元社協とカリタス釜石の共催）を務め、啓発活動にも協力している。 ②　看護チーム派遣（第3回）による仮設住宅と孤立集落（箱崎白浜地区）の在宅被災者のための訪問ケア活動を行った（3月18日～24日）。また派遣看護師は、上記のカリタス釜石の主催事業である「ベースふぃりあ」「移動ふぃりあ」にも協力している。 ●　宮城県　仙台・石巻 仙台JOCSを通じて東北教区被災者支援センターの活動（仙台市荒浜地区・石巻市など）に協力をしています。 URL：http://www.jocs.or.jp

仮設集会所訪問の一コマ

団体名	特定非営利活動法人　日本国際ボランティアセンター（JVC）
活動地域	福島県南相馬市、宮城県気仙沼市
対象者	当該地域の住民・被災者
実施した活動概要	● 福島県南相馬市の仮設住宅におけるサロン支援 仮設住宅の入居者が集うサロンの運営支援を継続。入居者にお茶やマッサージチェアを提供するサロンを毎日地元団体とともに運営しています。 ● 福島県南相馬市での災害ラジオ局の運営支援 住民に必要な情報を伝えるラジオ局「南相馬災害FM」の運営支援を継続。3月10日には、ラジオ局の地元スタッフによる報告会を東京で開催しました。 ● 気仙沼市鹿折地区の地域支援 支援が届きづらい地域で、住民の声をもとに生活支援を行っています。地域の人々の集いの場となるよう、畑づくりの支援を始めました。苗植えに向け、3月には開墾作業を行いました。

【南相馬】災害FMラジオ局の地元スタッフを招き、現地の状況を報告

【気仙沼】畑づくりに向け草木を刈り込む

団体名	特定非営利活動法人　日本リザルツ
活動地域	岩手県釜石市とその周辺自治体
対象者	上記活動地域の仮設住宅や集合住宅で生活する住民
実施した活動概要	【生活・事業再建に関する専門家等の出張形式相談会とフォローアップ】 先月に引き続き、医師や弁護士、保育士、整体師、中小企業診断士など手配し、仮設住宅等での出張形式の相談会を実施した。特に、釜石市のなかで支援が行き届いていない地域、栗林町や鵜住居町を中心に、相談会を行った。住民の生活と事業再建への第一歩を支援する活動を継続してきた。確定申告の時期でもあったため、税理士への税金に関する相談が多く、確定申告書作成作業などのサポートを行った。

3 月 18 日に行った相談会の看板

中小企業診断士が住民からの相談に応じている様子

団体名	特定非営利活動法人　ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
活動地域	主に岩手県大船渡市、宮城県東松島市、石巻市、女川町
対象者	家屋の全半壊認定を受けた被災者ならびに津波の被害を受けたコミュニティ
実施した活動概要	● 家屋の修繕・修復 岩手県大船渡市では、支援の情報が届きにくい被災者に支援の存在や内容を知ってもらうため、市全域でおよそ550世帯を訪問し支援チラシの配布（ポスティング）を実施。支援対象者には順次内定や契約締結、工事を進めています。 ● コミュニティ再建 ボランティアと一緒に宮城県東松島市、石巻市、女川町で支援活動を行っています。特に春休みの学生が多く参加し、先月から取り掛かった東松島市のコンテナ倉庫と石巻市の東屋は完成。女川町や石巻市で民家の修繕・修復支援も開始しました。 大船渡で行ったポスティング（戸別訪問で支援チラシを配布する作業）では今回、地元大船渡からも4名のボランティアが参加。活動を終えて、「他の被災者の方の悩みや相談に乗っていて、復興がまだまだということが改めて分かった」、「二極化が進んでいる。お金がある人は修繕をさっさと済ませているし、困っている人は全く手つかずのまま取り残されている」などと話し、支援の重要性を改めて感じている様子でした。

大船渡の地図を使いながら、ポスティングの打ち合わせをしている様子

女川町の民家で修繕作業をしている様子

団体名	特定非営利活動法人　パレスチナ子どものキャンペーン
活動地域	岩手県大槌町、釜石市
対象者	子どもと家族、被災者一般
実施した活動概要	● 児童館建設事業 春休みにあわせて3月19日(月)にプレオープン。春休み中、毎日小学生児童約30名が来訪。乳幼児の親子連れの来訪も多い。 ● 子ども支援 春休みのイベントを児童館で開催。 ● 被災者生活・物資支援 季節はずれの雪など寒い日も続いたが、各仮設団地を回って、食材を提供しながら実施している調理イベントは好評継続中。 町内3か所の仮設住宅地にて編み物会を継続実施中。 ● コミュニティエンパワメント 3月2日から20日まで写真返却展を開催。期間中約5000名が来場。

団体名	特定非営利活動法人　ピースウィンズ・ジャパン
活動地域	宮城県気仙沼市
対象者	地域のスポーツ少年団に所属する子ども、および子どもを取り巻く大人
実施した活動概要	ピースウィンズ・ジャパンは、震災の影響で活動を控えていた気仙沼市スポーツ少年団など子どもたちに対して、アクティビティを通して心理社会的ケアを図る活動を行ってきました。 また、東北圏内でのサポートネットワークを構築することに重点を置き、岩手県一関市のスポーツクラブに依頼して本事業に参加してもらい、各チームの練習のウォームアップの時間に共同でアクティビティを実施しました。県境を越えてそれぞれのスポーツ関係者が交流を深めました。

元気に駆け回る子どもたち（C)Sylvia Ross/ Mercy Corps

気仙沼市と一関市の子どもたちのスポーツ交流（C)Sylvia Ross/ Mercy Corps

団体名	特定非営利活動法人　ブリッジ　エーシア　ジャパン
活動地域	岩手県
対象者	岩手県の被災者の方々
実施した活動概要	● 被災地支援に使用する車両の貸与 岩手県盛岡市に拠点を持つSAVE IWATEに4輪駆動車両を無料貸与する支援を行いました。この車両は、支援物資の受け取り・配給・在庫管理のための輸送、被災地または被災者宅への支援物資の輸送、ボランティアやスタッフの輸送などに役立てられました。 ● 多目的コミュニティセンターの設置準備 岩手県大船渡市で「さんさんの会」と協力して、文化講座やレクリエーション活動、生活相談、困窮者のための食事の調理などを行う多目的コミュニティセンターの建設作業、困窮者のための食事の配給を行いました。

SAVE IWATEが支援している大槌町での『森の図書館』の建築に関わる資材や人材の移動に使用中の車両

大船渡市で建築中の多目的コミュニティセンター

団体名	特定非営利活動法人　メドゥサン・デュ・モンド　ジャポン（世界の医療団）
活動地域	岩手県大槌町
対象者	メンタルケアを必要とする被災地の方々
実施した活動概要	町全体が津波被害によって一変してしまった大槌町。自宅が残っていても買い物をする場所がなくなった、いつもの景色がそこにない、そんな環境の変化は全町民に共通していると言ってもいい。医療チームは、「こころのケア」の一環として、心の状態と切り離せない不眠の問題を被災された方々に理解していただき対処を身につけていただければと「眠りのコツ講座」を大槌町社会福祉協議会と共同開催しているのだが、在宅避難者の心身共に大変な状態が表面化し始めた。まだまだ十分ではないが、公私ともにサポートが入りつつあり仮設集会所を管理する地域支援員なども導入された仮設住宅にくらべ、在宅の方については行政もまだサポートのニーズを把握できていない状況であるという被災地に初めて入ったある医療者から、「病院で働くように待っていてもだめなんですね。自分たちで見つけ行動していかなくては。」との感想があった。

岩手県大槌町での世界の医療団の活動の様子

団体名	特定非営利活動法人　れんげ国際ボランティア会
活動地域	福島県いわき市小名浜地区
対象者	原発避難者
実施した活動概要	小名浜のショッピングモール「リスポ」内に設けた被災者交流の場「小名浜地区交流サロン」にて手芸品つくりの教室を開催。 初めての参加者が半分近くいたが、講師の指導や参加者同士で教え合うなどしてそれぞれ個性がある作品が出来上がっていた。参加者たちは楽しかったようで次回も参加したいと話す。 教室が終わった後は、お茶やお菓子を食べながら話をしたりしていた。参加者同士で乾杯する姿も見られ、賑やかで和気あいあいとしたサロンとなった。

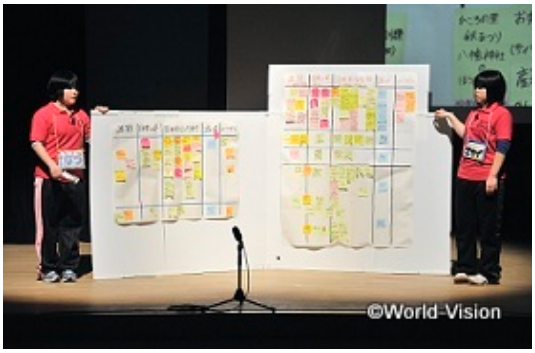
タオルを使ってのクラフトつくり

作品を手に記念写真

団体名	特定非営利活動法人　ワールド・ビジョン・ジャパン
活動地域	宮城県登米市、南三陸町、女川町、石巻市、名取市、新潟県柏崎市、岩手県大槌町、岩泉町、山田町、宮古市、田野畑村、野田村、久慈市、二戸市、洋野町、矢巾町、滝沢村、藤沢村、雫石町、紫波町、陸前高田市、一関市（当団体事務所）
対象者	3月に支援した人数　約7,900人 ※3月に新たに支援させていただいた方々のみをご報告しております。活動が継続している事業に関し、過去にすでに支援させていただいた方としてご報告済の場合、上記人数には含んでおりません。
実施した活動概要	2月からの継続事業 ● チャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）で子どもたちの心のケア ● 南三陸町歌津地区学童保育再開支援事業 ● 気仙沼市の漁業を活性化させるための「ブランド力向上プロジェクト」の実施 ● 仮設住宅への衣料品・生活物資（支援活動を行っている教会等のグループ・団体を通した支援も含む）・「仮設のトリセツ」の配布 ● 学校給食及び給食センター応急稼働支援 ● 新潟県柏崎市に避難中の福島県民世帯への見守り支援員による個別訪問や、避難者交流イベントの開催 ● 仮設団地の集会所での消耗品（飲み物など）の支援や、親睦会などのイベントの開催 ● 小・中学校への井戸・ソーラーパネル・ビオトープの支援 ● 託児支援（MIYAGI子どもネットワークとのパートナリング） ● 震災で著しく家庭の経済状況が悪化したために就学困難となった子どもたちが安心して学校で学べるよう就学支援の実施 3月の新規事業 ● 南三陸町で、子どもたちが町の復興について考え、まちづくりに対して自らの意見を発信するための子ども参画イベントを開催しました。イベントでは子どもたちが自らの意見を寸劇という形で発表しました。子どもたちは支援活動の消極的な受け手と見られがちですが、このイベントは子どもたちが復興に際し積極的な地域づくりの担い手になることができることを示しました。 ● 震災以降、登米市の旧善王寺小学校に間借りしていた戸倉小・中学校の生徒たちの志津川への移転が決定したので、机・椅子・書架などの物品支援を

	行っています。これにより、生徒たちはより良い教育環境で勉強できるようになることが期待されます。 ● 南三陸町と気仙沼市の仮設住宅に住む被災者の買い物や通院のための交通手段の確保を目的として、社会福祉協議会に「福祉車両」を寄付しました。 当団体の東日本大震災復興支援のための募金受付は3月末で終了いたしました。今までたくさんのご支援をいただきまして本当にありがとうございました。募金は終了いたしましたが、今後も復興支援の活動は続けて参ります。

柏崎市で行われた交流イベントの様子



南三陸町で行われた子ども参画イベントの様子